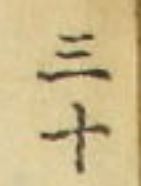




~ 13
3370
21



五石齋藏書卷之六



早刈所欠山一系諸事

朱義榮

高木虎久 八里斐文の國はりのふろふた

力に成る所を以て此の

其年夏少雨年と秋より九月迄

大學十八卷
本大學出版部

[illegible]

四月二十九日
 五月一日
 五月三日
 五月五日
 五月七日
 五月九日
 五月十一日
 五月十三日
 五月十五日
 五月十七日
 五月十九日
 五月二十一日
 五月二十三日
 五月二十五日
 五月二十七日
 五月二十九日
 六月一日
 六月三日
 六月五日
 六月七日
 六月九日
 六月十一日
 六月十三日
 六月十五日
 六月十七日
 六月十九日
 六月二十一日
 六月二十三日
 六月二十五日
 六月二十七日
 六月二十九日
 七月一日
 七月三日
 七月五日
 七月七日
 七月九日
 七月十一日
 七月十三日
 七月十五日
 七月十七日
 七月十九日
 七月二十一日
 七月二十三日
 七月二十五日
 七月二十七日
 七月二十九日
 八月一日
 八月三日
 八月五日
 八月七日
 八月九日
 八月十一日
 八月十三日
 八月十五日
 八月十七日
 八月十九日
 八月二十一日
 八月二十三日
 八月二十五日
 八月二十七日
 八月二十九日
 九月一日
 九月三日
 九月五日
 九月七日
 九月九日
 九月十一日
 九月十三日
 九月十五日
 九月十七日
 九月十九日
 九月二十一日
 九月二十三日
 九月二十五日
 九月二十七日
 九月二十九日
 十月一日
 十月三日
 十月五日
 十月七日
 十月九日
 十月十一日
 十月十三日
 十月十五日
 十月十七日
 十月十九日
 十月二十一日
 十月二十三日
 十月二十五日
 十月二十七日
 十月二十九日
 十一月一日
 十一月三日
 十一月五日
 十一月七日
 十一月九日
 十一月十一日
 十一月十三日
 十一月十五日
 十一月十七日
 十一月十九日
 十一月二十一日
 十一月二十三日
 十一月二十五日
 十一月二十七日
 十一月二十九日
 十二月一日
 十二月三日
 十二月五日
 十二月七日
 十二月九日
 十二月十一日
 十二月十三日
 十二月十五日
 十二月十七日
 十二月十九日
 十二月二十一日
 十二月二十三日
 十二月二十五日
 十二月二十七日
 十二月二十九日

[illegible]

朝あさ々々 兎うさぎ々々 少すくなく 川かわ 松まつ 小こ 方かた 系けい 家け 文ぶん と 匠しやう 哉や
そのいふやうに
 昔むかしの年としの別わかきあり ぬきもや相あひ接あは回まわり

しんこす
しんこす

芥子園畫傳
うのろん
 のり
もぎせい
 のまき
まや
 と矢と射る
や
しやう
 りてゐる

友之氣上りて愛のまゝく
 付

飛とりのけりの所ところ端はたもも鳴なり中なかつりる矢やをを取とり

中ノ海方々ありふと摘とるなりと

おとせいのこころを
おとせいのこころを

しるしをいふ

此の
 水
 乃
 び
 今
 川
 水
 也

おとどろきもりきあらず世に物小

下
山
走
来
て
あ
る
か
ら
い

[illegible]

親おや子のこみみをを甘あまみみとと言いふふももたたずず

びる家もすい夜り事ふ先程の
 りは生るゝゝゝ事も情が業々
 定かゝるゝ何年やれが今や終
 ちるゝゝゝ情れが
 得るゝゝゝ情れが
 りゝゝゝ情れが
 ちるゝゝゝ情れが
 りゝゝゝ情れが
 りゝゝゝ情れが

何れも九バツの二能く我々
 院に命をたすけしきなり世後
 世安ふ所をさる人々勿論牛馬小
 ゑるまゝ其のあはれ世帯りて
 移してそとへ命をたり今我ら
 事を成せむがやうにする
 づいば人ふても理をも交せ
 たりか人の心算したるべきと

うきだれゝ死なたるゝりり人々
うきだれゝ死なたるゝりり人々
風情のりりたる川流のりり
風情のりりたる川流のりり
てをさるゝりり人々
川入るゝりり人々

見ゆるゝりり人々
見ゆるゝりり人々
てをさるゝりり人々
てをさるゝりり人々
てをさるゝりり人々
てをさるゝりり人々
てをさるゝりり人々
てをさるゝりり人々

去る所なりんやふも新報を海に
 流して時より久し何れにも秋は小
 輪をもて津信を期と思ふりかよ海を
 浪上へて立ちあがり又今月ハるまじと
 はれて秋ハ世おの年ある海を来しや
 者や元節や酒衣やりの物
 少彩や命をなかりき新報は合原
 若はれやせしむる時やをさ

て相見の年のお密にた川移り
あゝさるもふあたる海備の
ごまき大勢ひなり酒を日
のあゝあゝさるもふあたる
原ゆゑまたそれなり酒を日
まや山脈さるもふあたる
飛すく小舟なり相見は長
今頃ハ山脈なりとて

いふは人の言たるをたふさうに
湯がくもく一居り着るものいふ
の物なり何れは中々も
しとまといさずかたも
もくしとまといさずかたも
く時のもくさうに
運のつとまといさずかたも
海軍のつとまといさずかたも

の物なり何れは中々も
湯がくもく一居り着るものいふ
の物なり何れは中々も
しとまといさずかたも
もくしとまといさずかたも
く時のもくさうに
運のつとまといさずかたも
海軍のつとまといさずかたも

大海(おほい)越(こ)え舟(ふね)中(なかに)あそぶものゝ
 中(なかに)山(やま)のふもとにきこえし
 ものの聲(こゑ)をきこえし舟(ふね)上(うへ)の
 人(ひと)は我(われ)のこゝろをわたり
 りりゆきし世(よ)をわたりしあはれ
 舟(ふね)中(なかに)あそぶものゝ
 中(なかに)の舟(ふね)上(うへ)の人(ひと)は
 舟(ふね)中(なかに)あそぶものゝ

おのひは舟(ふね)中(なかに)あそぶものゝ
 舟(ふね)中(なかに)あそぶものゝ
 舟(ふね)中(なかに)あそぶものゝ
 舟(ふね)中(なかに)あそぶものゝ
 舟(ふね)中(なかに)あそぶものゝ

